

那珂川町 合併20周年 記念誌



町長あいさつ



このたび、那珂川町が合併20周年という大きな節目を迎えるにあたり、町民の皆さまをはじめ、町の発展にご尽力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

平成17年10月1日、馬頭町と小川町が合併し、新たな「那珂川町」が誕生してから、早くも20年が経ちました。両町の歴史と伝統を受け継ぎながら、私たちは1つの町として歩みを進め、地域に根ざしたまちづくりに取り組んできました。

これからは、住み続ける町民、子育て世帯、観光客、移住定住者が増加し、多くの人々が未来への期待に「わくわく」して暮らしていける町を目指し、これまで以上に住民の皆さまと行政が一体となり、地域の魅力を活かした取り組みを進めていきます。

合併20周年というこの節目を新たなスタートラインと位置づけ、次の10年、20年を見据えた持続可能なまちづくりに向け、また、未来を担う子どもたちのために、誇りと希望あふれる那珂川町を築いてまいります。

結びに、この記念誌が町の歩みを振り返り、未来への思いを共有する1冊となることを願いまして、ご挨拶いたします。

那珂川町長 福島 泰夫

町議会議長あいさつ



合併20周年を迎えるにあたりまして、町議会を代表しましてご挨拶を申し上げます。

馬頭町と小川町が合併し那珂川町となり、歩み続けた20年という月日を振り返りますと、東日本大震災や、新型コロナウイルス感染症拡大など大きな困難を乗り越えてまいりました。それも、町民の皆さまのたゆまぬ努力と地域の力強い支え合いがあったからこそと、心より感謝を申し上げます。

合併後には、新庁舎や子育て支援住宅エミナール那珂川、屋内水泳場ウェルフルなかがわなど新たな施設が完成し、議会も共に施設整備施策に取り組んでまいりました。

2元代表制の一翼を担う議会といたしましてもこの合併20周年は、単なる節目ではなく、未来を切り開いていく新たな出発点として捉えていく所存であります。加速する少子高齢化に伴う地域の課題解決に向け、ずっとあり続ける那珂川町を目指して、町民の負託に応えるべく、議員一同なお一層全力で取り組んでまいります。

結びに、この20周年を契機とした那珂川町のますますの発展と、町民の皆さまのご健勝をご祈念申し上げましてお祝いのご挨拶といたします。

那珂川町議会議長 益子 明美

目次 ～CONTENTS～

町長あいさつ	2
町議会議長あいさつ	3
那珂川町20年のあゆみ	4-5
未来につなぐまちのチカラ	6-7
Message～今まで これからの那珂川町へ～	8-10
東京ヤクルトスワローズ 星知弥選手	
北海道日本ハムファイターズ 石井一成選手	
那珂川町ふるさと大使 佐藤彰紘さん	
那珂川町ふるさと大使 山崎紗也夏さん	
世界最高齢の現役理容師 箱石シツイさん	
「なす香」代表 池澤健さん	
Message～二十歳を迎えた方より～	11
馬頭中学校出身 斉藤潤斗さん	
小川中学校出身 桧山未来さん	

那珂川町民憲章

那珂川町は、清流那珂川と緑豊かな里山に抱かれ、美しい自然と歴史や文化が調和した町です。

わたしたちは、那珂川町民であることに誇りを持ち、やさしさと活力に満ちたまちづくりを目指し、ここに町民憲章を定めます。

- 一、自然を愛し やすらぎのあるまちをつくります
- 一、教養を深め 文化のかおり高いまちをつくります
- 一、仕事に励み 活力のあるまちをつくります
- 一、スポーツに親しみ 健康で明るいまちをつくります
- 一、互いに助けあい あたたかいまちをつくります

町の花・木・鳥



かたくり

早春に薄紫色の花を咲かせます。小さな花一つ一つが控えめな中にも美しく、群生する様は見る者に感動を与えることから、協働のまちづくりを目指す那珂川町のシンボルとしてふさわしい花です。
三輪地区に県内一を誇る群生地があります。



まつ

常緑樹として周年、緑葉を茂らせることから若さ、不老長寿の象徴とされ、厳しい環境の中でもたくましく根を張り、力強く勇壮な姿は活力あるまちづくりを目指す那珂川町のシンボルとしてふさわしい木です。



うぐいす

別名「春告鳥」と言われ、春の先駆けとして山里に賑わいと、人々に希望や喜びを与えてくれます。
その姿と里山にこだまする美しい鳴き声は自然豊かな美しいまちづくりを目指す那珂川町のシンボルとしてふさわしい鳥です。



なかちゃん

「なかちゃん」は、当町の町名の由来となった、町の中央部を流れる「那珂川」をイメージしたキャラクターです。頭とマフラーは川の流れを表し、額には、清流に住む「アユ」を乗せています。

那珂川町 20年のあゆみ

2017



新庁舎竣工式

2016



プロ野球選手祝賀会

次の「20年」へ

2025
令和7年

2024
令和6年

2023
令和5年

2022
令和4年

2021
令和3年

2020
令和2年

2019
平成31年
令和元年

2018
平成30年

2017
平成29年

2016
平成28年

2015
平成27年

2014
平成26年

2013
平成25年

2012
平成24年

2011
平成23年

2010
平成22年

2009
平成21年

2008
平成20年

2007
平成19年

2006
平成18年

2005
平成17年

2020



エミナール那珂川竣工

2024



なかちゃん「ゆるバス」出場

2018



小川出張所業務開始

2018

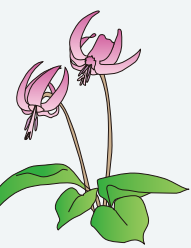


馬頭西小学校閉校式

2015



町うた合唱



8月・町のうた「心はふるさと」那珂川町 町うた完成
(シンガーソングライター工藤慎太郎さん作成)
6月・秋田県美郷町と「災害時における那珂川町と美郷町との相互応援に関する協定」締結
5月・合併10周年記念事業「なかちゃん田んぼアート」田植え(上河原サンデー会)
4月・道の駅ばと「馬頭むらおこしセンター」リニューアルオープン
3月・なす風土記の丘資料館が県から町へ移管

3月・東京都豊島区と観光交流都市協定「ふくろう協定」締結

11月・全国スポーツ・レクリエーション祭3B体操大会開催
4月・町コミュニティバス「馬頭鳥山線」運航開始
3月・東日本大震災
10月・合併5周年記念式典でイメージキャラクター「なかちゃん」、ケーブルテレビ放送センター愛称・ロゴを発表
4月・馬頭東小学校閉校、わかあゆ保育園開園、子育て支援センターわかあゆ開設

2011

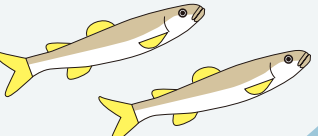


全国スポーツ・レクリエーション祭(3B体操大会)

2013



「日本で最も美しい村」連合加盟



10月・プロ野球新人選手選抜会議(ドラフト会議)で町内から2名の選手が指名され、初のプロ野球選手が誕生
・野木町と観光交流都市協定「ふくろう協定」を締結
10月・新庁舎開庁
4月・保育園4園と幼稚園2園廃止、認定こども園新設

2月・文星芸術大学と「文化芸術活動に関する相互協力協定」締結

11月・帝京大学経済学部地域経済学科と「地域振興の調査研究に関する相互協定」締結

10月・小砂地区が「日本で最も美しい村」連合に加盟

10月・町民憲章、町のシンボル(町花・町木・町鳥)を制定
・滋賀県愛宕町と「姉妹都市」の提携並びに災害時相互応援協定「締結」

3月・アメリカ合衆国ホースヘッズ村と「姉妹都市提携」締結

5月・イノシシ肉加工施設竣工
2月・宇都宮メディア・アーツ専門学校と「相互友好協力協定」締結

3月・合併記念式典
・町名採用者表彰・町章デザイン優秀者表彰

10月・馬頭町と小川町の合併により那珂川町誕生

2005



開町式

2006



町章デザイン優秀者表彰

2010



ケーブルテレビロゴ発表



新庁舎整備

1 快適に暮らせるまちをつくる

快適に暮らすことができる環境づくりをめざして、利便性の向上に努め、住み良さを実感できる生活基盤の整備と維持管理を図ります。自然と調和した地域の活力を生む土地利用を図ります。



コミュニティバス



消防団

2 元気で明るく暮らせるまちをつくる

乳幼児から高齢者まで誰もが心身ともに健康で、故郷の地で支えあいながら充実した生活ができるよう、健康、医療、福祉、少子高齢化対策などの充実を図ります。



那珂よし健康ポイント事業



子育て支援住宅「エミナール那珂川」



認知症サポーター養成講座

3 人を育むまちをつくる

次代を担う人材育成と豊かな人間形成を目指して、地域の特性を活かした一体感のある学校教育や生涯学習などの充実を図ります。



屋内水泳場「ウェルフルなかがわ」



なかがわ清流マラソン大会



ネイチャークラブ

4 活力をおこすまちをつくる

これまで引き継がれてきた豊かな地域資源を守りながら、今ある産業をより安定したものとするとともに、新たな連携や結びつきにより産業の裾野を広げ、地域資源の価値を高め、働く場の確保・創出を図ります。また、交流人口を増やしにぎわいの創出を図ります。



道の駅ばとうリニューアル



広重商工まつり



馬頭高校農業実習

5 人と自然が共生するまちをつくる

人々に恩恵を与える優れた自然は、次代に継承すべき共有財産として、共存共栄の視野に立って自然環境や生活環境の保全対策を図ります。さらに、町独自の地域循環型社会の構築を推進します。



なかちゃんトイレプロジェクト



あゆめ放流



環境美化運動

6 ともに考え行動するまちをつくる

町民・民間・行政が協働し、限られた予算と人員の中で効率的な行財政運営を進めるとともに、定住自立圏の事業を通じて人口減少の抑制と地域の活性化を図ります。



棚田オーナークラブ農業体験



姉妹都市交流事業



まちつくり懇談会

里山の緑に包まれて、自然とともに生きてきたこのまち。人のぬくもりと、小さな想いの積み重ねが、まちのチカラになっています。那珂川町は、平成27年度に「第2次那珂川町総合振興計画」を策定し、“人・もの・自然が融和し、みんなで手を取り合い元気を生み出すまち”の実現に向けて、さまざまな政策に取り組みました。

Message

今まで これからの那珂川町へ



東京ヤクルトスワローズ
星 知弥 選手

東京ヤクルトスワローズの星知弥です。
私は、那珂川町で生まれ育ちました。高校からは那珂川町を離れた生活になっていますが、那珂川町でのびのびと走り回っていた子供時代があったからこそ今の自分があります。
緑が多いこの町は、環境が本当に素晴らしいです。この環境を守り、那珂川町が発展していくことを願っています。
私も、子どもたちの明るい夢となれるよう頑張ります。

プロフィール

小学4年生から馬頭ラッキーに所属し、馬頭中学校から宇都宮工業高等学校、明治大学へ進学。大学時代の直球最速は156km/hを記録し、東京六大学野球リーグの優勝に貢献した。右投右打。
(馬頭出身)

那珂川町は、私にとって、生まれ育った大切な場所です。町の皆さまには、帰るたびに元気をいただいています。どんな時も変わらず温かく応援してくださり、本当にありがとうございます。

那珂川町は、子どもたちがのびのびと成長できる環境が整っていると思うので、これからも、この町からたくさんのプロフェッショナルが育ってほしいと願っています。

プロフィール

小学1年生から小川那珂クラブで野球を始め、小川中学校から作新学院高等学校に進み甲子園に3回出場。3年生の時は主将として活躍した。早稲田大学へ進学。第64回全日本大学野球選手権大会で優勝。右投左打。
(高岡出身)



北海道日本ハムファイターズ
石井 一成 選手

Message

今まで これからの那珂川町へ



那珂川町ふるさと大使
佐藤 彰紘 さん

合併20周年、誠にありがとうございます。
那珂川町との出会いは、野球がきっかけでした。那珂川町野球連盟と、私が所属している大宮市(現さいたま市)スポーツ少年団野球部会は、これまで数々の審判員同士の合同講習会を行ってまいりました。
交流会の参加者たちは、那珂川町は、静かで景色も良く、食べ物もおいしいと話しています。もっと多くの方に那珂川町を知ってもらうため、さいたま市の野球チームの皆さんに今まで以上に町をPRしていきたいと思っています。

プロフィール

さいたま市スポーツ少年団軟式野球公認審判員として活躍。同スポーツ少年団野球部会中央ブロック審判部総務副部長等を経験。1989年から那珂川町とさいたま市で審判員合同講習会を開催、夏季には両少年団野球部の練習試合交流を行っていた。現在もさいたま市野球チームへ指導を行い、選手の育成に貢献している。

この度は、合併20周年ということで、おめでとうございます。私が育った白久というところは、周りには田んぼと小さな川とプラドウ園の多い場所で、近くには赤い三重の塔が目印の長泉寺があり、のびのび遊ぶには最高の環境だったと思います。

那珂川町で思い浮かぶものは、なんといっても那珂川ですね。そして鮎。東京に住んでいると、悠々と流れる大きな川があることが、どれだけ素晴らしいことかしみじみ感じます…！

そして、夜空もすてきです。
明るいまちづくり、微力ながら今後も応援していきたいと思っています。

プロフィール

漫画家。高校3年生で雑誌デビューを果たす。1993年には、「ミス・キャスト」でちばてつや賞の佳作に入選。2005年7月に「はるか17」、2011年4月に「シマシマ」、2015年10月に「サイレン」、2021年に「レンアイ漫画家」など、自身の作品が多数テレビドラマ化されている。(白久出身)

本冊子の表紙を作成いただきました！



那珂川町ふるさと大使
山崎 紗也夏 さん

Message

今まで これからの那珂川町へ



世界最高齢の現役理容師
箱石 シツイ さん

私は、大正5年11月10日に当時の大内村に生まれました。14歳のときに理容師を目指すため東京へ単身で上京し、29歳で旧馬頭町に戻りました。大変なこともたくさんありましたが、子どもたちと助け合いながら理容師を続けてきました。

那珂川町は自然に恵まれていて、災害にも強く、住んでいるみなさんはとても温かいです。これは、町の誇れる点だと思います。

町では人口減少が続いていますが、企業をもっと誘致できれば町に人がとどまるのではないのでしょうか。これからも、人と人がにこやかにあいさつし合って“あたたかいまち”をつくっていったらいいですね。

プロフィール

19歳の時に東京で理容師免許を取得したのち、37歳で谷川に「理容ハコイシ」を開店。104歳で東京オリンピック2020の聖火ランナーを務める。2025年3月5日に、世界最高齢の現役理容師として、108歳でギネス認定を受けた。(谷川出身)

小学生の頃は、学校に土器や石器が展示してありましたが、特に気にとめることはありませんでした。しかし、定年退職後に那珂川町に戻り、改めて町の歴史に目を向けると、全国的に見てもとても貴重な史跡や資料が多くある町だと分かりました。

今では、これらの歴史を町内外の子どもたちに伝えるボランティアとして活動し、子どもたちから元気もらっています。

これからの町の課題は多くあると思いますが、町を盛り上げようと個々で頑張っている人たちがたくさんいます。もっとみんなで協力し合い、知恵を出し合ってほしいと思います。

プロフィール

平成22年、なす風土記の丘資料館の「歴史解説員養成講座」を受講し修了したのち、ボランティア「なす香」に登録。令和3年より4代目のなす香代表に就任。勾玉づくりや火おこし体験など、主に小中学生を対象とした体験活動の補助を行っている。(小川出身)



なす風土記の丘資料館
ボランティア団体「なす香」代表
池澤 健 さん

Message

今まで これからの那珂川町へ 二十歳を迎えた方から



馬頭中学校出身
齊藤 潤斗 さん

大学進学のため故郷の那珂川町を離れて、改めて自然の豊かさを懐かしく感じるとともに、人の温かみのありがたみを実感しました。

那珂川町は、私にとって人のつながりの強さを感じさせてくれた町です。町民の方々に見守られながら育った私は、人と人のつながりが深いからこそ住みやすい町になっていると感じています。離れることで改めて気づいた那珂川町の魅力を、これからも大切にしていきたいとともに、多くの人に伝えられるようにしていきたいです。

いつまでも自然豊かで、誰もが帰って来られる、温かく迎え入れてくれるような町であり続けてほしいと願っています。



私は5月に誕生日を迎え二十歳になりました。そして、10月に、私が生まれ育った那珂川町も二十歳を迎えます。この町の魅力は、なんといっても美しい自然と、そこから生まれたおいしい農作物です。まほろばの湯の近くの堤防を歩くと、春には桜、初夏にはアユ釣りをする人など、四季折々の変化を楽しむことができます。

祖父母はこの町で農業をしています。秋に収穫される那珂川町のきれいな水で育った米は格別です。この町で過ごした日々の中で、自然の恵みや人のあたたかさに触れながら、私は多くのことを学び、成長することができました。那珂川町で育ったことは、私の誇りです。



小川中学校出身
桧山 未来 さん

祝
20



な
か
わ
わ

心はふるさと 那珂川町 町うた

作詞 那珂川町のみなさん・工藤慎太郎
作曲 工藤慎太郎
編曲 小倉良・栗尾直樹

ひまわりの花咲く頃 裸足ではしゃぐ 川遊び
那珂川を背に歩いた 夕日沈む 帰りの道
心の中はふるさと 変わらない景色がある
静かに耳をすませば こだます 夏の日

紅葉が色づいた頃 せせらぎ小径赤とんぼ
母の背中追いかけた 風に揺れる すすきの道
心の中はふるさと 変わらない景色がある

立ち止まり振り返れば 黄昏の 秋の日

冬の夜空に指差しながら

見上げるオリオンの 星の輝き忘れられない

夢はまだ 胸の中

カタクリの芽が出る頃 棚田に映る鯉のぼり

友と手を振り別れた 桜舞い散る 並木の道

心の中はふるさと 変わらない景色がある

涙でまぶた閉じれば 頬伝う 春の日

頬伝う 春の日

表紙について

那珂川町ふるさと大使
漫画家

山崎 紗也夏さん(P8)

那珂川町の町うた「心はふるさと」の歌詞をモチーフに作成しました。

ふるさとを想う気持ちは、人によってさまざまです。女の子の胸の中心にあるのは、那珂川町。町に住んでいる人、離れている人、たくさんの人から思われていることで、那珂川町は皆さんの心に優しい光を灯しています。

背景には、清流那珂川と、元気に跳びはねる鮎、そして歌詞に登場する町花のカタクリ、夜空に輝くオリオンが私たちを優しく見守ります。

町うたについて

那珂川町ふるさと大使
「町うた」の作詞・作曲者

工藤 慎太郎さん



- 1980年 母方の故郷である馬頭町で産声をあげ、埼玉県川口市で育つ。
 - 2005年 テレビ埼玉のオーディション番組で10週勝ち抜きを達成。歌手・八代亜紀よりスカウトを受ける。
 - 2006年 日本コロムビアよりメジャーデビュー。デビュー曲「シェフ」で第39回日本有線大賞新人賞を受賞。
 - 2007年 楽曲「君を想う」「願い」の2曲がユニクロTV-CMソングに起用される。
 - 2015年 那珂川町ふるさと大使に就任。那珂川町合併10周年記念曲「心はふるさと」を制作。
- 校歌や映画イメージソングなど幅広く手がけ、その温かな歌声は多くの人を魅了し続けている。